

平成 13 年 8 月 23 日

## 池袋大橋壁面に立教大生がアート

～「空」と「海」をテーマに、落書きをなくして街に明るい風景を～

JR 池袋駅の東口と西口をつなぐ連絡車道である池袋大橋の壁面に、立教大生による「空」と「海」をテーマにしたカラフルでポップな絵画がお目見えし、街行く人や電車の車窓からの目を楽しませている。

昭和 40 年 3 月に開通した池袋大橋は、今年の 4 月 1 日に特別区道路線として都から区へ移管されたが、かねてより落書きがひどく、区民らから苦情や不満が出されていた。そこで区では、落書きを防止し、街の雰囲気をもっと明るくしようとこの壁面に絵を描くことを提案。立教大学に打診したところ、学生生活を送る池袋に愛着があり、以前から街づくりへの参加にも関心のあった美術部の学生が快く引き受け、この夏、自分たちの腕試しも兼ねて描いてくれる運びとなった。

壁画を描くためのハケやパレット、塗料等の原材料や脚立等は区が負担。7 月 23 日から壁面の下地作りの工事が始まった。8 月 5 日からはいよいよ壁画に取りかかり、学生たちは 10 日間かけて思い思いに絵を仕上げた。単に塗装をただけではまた落書きをされてしまう恐れがあるため、区では落書きされても簡単に落とせるよう、絵の上に特殊なコーティングをすることに。このコーティング作業が明日 24 日（金）から明後日 25 日（土）にかけて行われ、壁画の完成となる。

立教大学美術部では、池袋大橋の話が決まると、まず絵のテーマを考えた。描く人によって表現に幅が出そうなもので、かつそれなりの統一感を出せるものを、と「空」と「海」が選ばれ、有志部員によって下絵が提出された。集まった中から区が 9 点の作品を選び、実際に描いてもらうことにした。配置は向かって右から暖色系を含んだものから寒色系の割合が高いものへと、グラデーションを考えて決められた。

下絵の段階で、画材や描き方は様々。中には CG で作成したものもあった。それを初めて使うペンキという画材で仕上げていくのは、かなりの不安があったと学生は話す。実際、初めて使うにあたっては、ペンキ屋さんがローラーの使い方や色の混ぜ方など指導に来てくれたという。初めはおそるおそる作業をしていた学生たちも、次第にダイナミックな動きでペンキを使いこなすようになり、自分の表現で心のこもった夢のある絵を仕上げていった。作業中、絵を描いている姿を見た池袋でライブハウスを開いている人から、「うちのライブハウスにも絵を描いて欲しい」という要望も寄せられたという。

部長の古河さんらは、「作業中も、住民や来街者の方々から温かい言葉をかけていただき、やりがいを感じた。自分たちの作品の発表の場となると同時に、街の環境美化のために役に立つなら、機会さえあればこれからもこのような活動を積極的にやっていきたい」と話した。

お問い合わせ 道路整備課長